

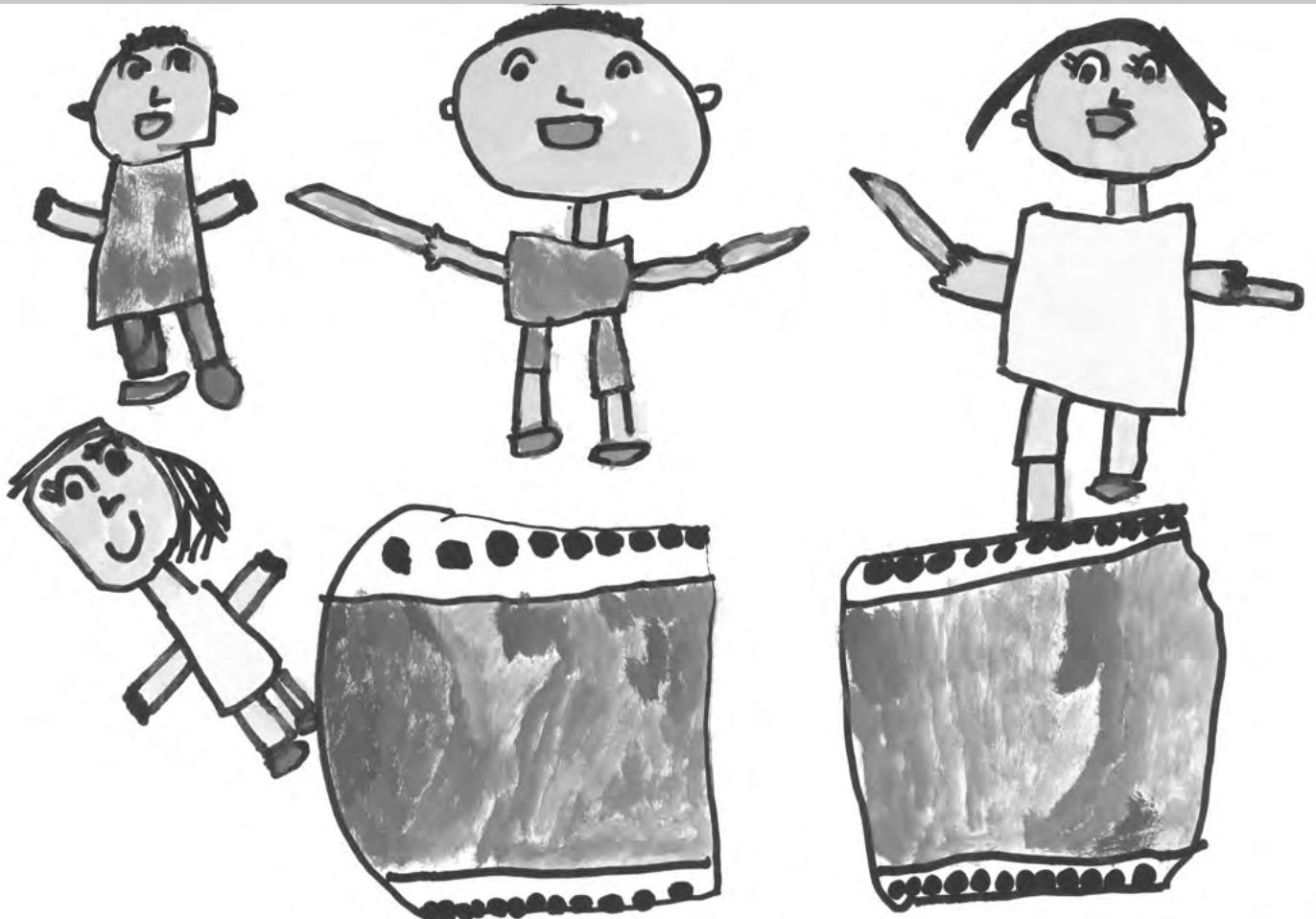
# 保育北九州

令和元年10月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟  
〒805-0019  
北九州市八幡東区中央2丁目1-1  
(レインボープラザ5F)  
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義  
編集人 西敏昭

2019 197



「たいこでワッショイ！」 (5歳児の作品)

〈提供 小倉北支部〉

表紙 .....	1
(公社)北九州市私立保育園連盟会長就任にあたって .....	2～3
仲間たち .....	4～5
研修・一期一会 .....	6
支部近況 .....	7
雑感・編集後記 .....	8

# （公社）北九州市私立保育園連盟 会長就任にあたって



この度、令和元年6月18日の役員改選により（公社）北九州市私立保育園連盟会長に選出されました岡村信久です。元号が平成から令和に改元された節目の年に橋原淳信会長の後任として、当連盟第7代の会長に就任させていたたくこととなりました。

橋原先生は、平成18年からこれまで

13年間の長きに亘り、当連盟の会長を務められました。この間橋原先生は真摯に当連盟の発展に貢献されるとともに、平成25年度から26年度にかけては、（公社）全国私立保育園連盟副会長として同連盟を代表し、国の「子ども・子育て会議」の初代委員に委嘱されました。先生はこの子ども・子育て会議を、一度も欠席することなく、毎回、子どもの福祉向上の視点に立った貴重なご意見を述べてこられました。

このようなご功績により、平成27年春の叙勲において「瑞宝双光章」受章の栄に浴されました。

温厚、誠実な性格で責任感の強い橋原先生は、当連盟会員はもとより全国の指導的立場にある多くの保育園関係者からも、優れた指導者として高く評価さ

れておられます。

橋原会長の後任を拜する者として、改めて橋原先生の当連盟会長としてのご尽力・ご功績に対し、深甚なる感謝の意と敬意を表したいと思います。

一方で、偉大なる橋原先生からお受け取りした会長職というバトンは私にとっては大変重いバトンに感じています。これといった能力もない平凡な私に会長職が果たして務まるのか、自分の適性に疑問を感じます。

私は、北九州市私立保育園連盟初代会長、3代会長と共に全国私立保育園連盟の会長も務められた、西村法昭先生と良樹先生親子のお二人のもとで、二十代の頃から30年余り保育園の仕事を修行させて頂きました。今日の私があるのはお二人のお陰であり、大恩あるお二人の傍に長くいた私にとって、連盟組織の会長としてのお二人は、まさに雲の上の存在でした。

お二人を通して、指導者とはかくあるべしというお姿に毎日接してきたため、私などが、将来会長を目指そうなどとは露も考えたことなどありません

でした。そのため、会長に必要な見識や心構えを身に付けようと自己研鑽に励むといったこともなく、現在に至ってしまいました。このため正直なところ、会長に選出された際は大変狼狽いたしました。

私がまだ若いころ、藤岡佐規子先生から「保育の勉強をしっかりと、理論武装しなきゃダメよ。そして行政と仲よく喧嘩できるようになさい」と叱咤激励？ご助言をいただいたことがあります。恐れ多いことですが、折角のご助言を活かすこともできないまま、この度の会長就任となった次第です。

今更、自分の不勉強を後悔してもまさに後のまつりです。とは言っても会長職をお引き受けした以上、会長としての責任を果たさなければなりません。

自分に一体何ができるのかと思案中、ふと思いついたことがあります。それは西村法昭先生が亡くなられて間もない頃、全てを後継されたご子息の西村良樹先生が私に言われた言葉でした。「俺は今、周りの皆から亡き親爺（おやじ）と比較されて、あれが足りない、こん

な所がダメだと色々言われている。だが俺は親爺とは違うんだよな。だから親爺と同じようには出来ないし、親爺のようにはなれない。だから誰が何と言おうと俺は俺流でやっていくしかないんだよ。」確かにそう考えるしかないですよ。今は亡き西村良樹先生があたりかも私の背中を押してくれているように、「お引き受けした以上は私流で職責を果たしていくほかない」と、やっと得心することができた次第です。

さて、私が会長に就任することとなった令和元年度は、平成24年8月に成立した「子ども・子育て関連3法」を踏まえ、平成27年4月から施行された「子ども・子育て支援新制度」が5年目となり、この制度の見直しが国の子ども・子育て会議において行われています。まさに我が国の保育制度の重大な岐路となる年です。また、本年10月から始まる「幼児教育・保育の無償化」に伴う食料費を保護者から徴収する問題や保育士確保の問題、保育士の処遇改善の問題、保育園から認定子ども園への移行についての課題等、かつてないほど保育

園を取り巻く課題の多い年です。

また、当連盟は平成25年に社団法人から公益社団法人に移行し、その使命として、地域社会に対する公益的な活動の充実発展に取り組んでいくことが常に求められています。この活動に取り組むために必要な財源確保の課題も常に抱えています。

このような多くの困難な課題に取り組むにあたり、当連盟は、今まで以上に子どもに視点を置いたうえで、何を變えるべきか、何を守るべきかを判断していかねばならないと思っています。

現行の「子ども・子育て支援新制度」に基づく国の施策は、驚くほど難解で複雑化しています。しかしながら、我が北九州市は「子育て日本一」を実感できるまちの実現を目指しており、私たち保育者の良き理解者であり、心強いパートナーです。当連盟では、今後ますます北九州市保育所連盟、北九州市保育士会と一致団結し、北九州市と密接に意思疎通を図り、連携しながら、北九州市独自の充実した保育施策の実現に取り組んでまいりたいと考えています。その

実現に向けて必要不可欠なのは組織の結束力です。感謝すべきことに、これまで歴代会長や諸先輩方が「組織は力なり」のスローガンのもと、心血を注いで北九州市私立保育園連盟を「一枚岩のような強固な組織」に育ててくださいました。この誇るべき結束力を今後も断固として守り、更に強固にしていくこと、それが私に課せられた第一義の使命と考えています。

今後取り組むべき多くの困難な課題を思うとき、当連盟には卓越したリーダーシップが求められるところです。この点、私が会長であることを甚だ心もとなく思っています。

しかしながら幸いにも北九州市保育所連盟の酒井光義会長、北九州市保育士の北野久美会長という心強いお二人がおられます。

また、橘原淳信前会長には快く当連盟の顧問に就任していただきました。経験豊富で見識の高いこのお三方をはじめ、諸先輩方にご指導ご助言を仰ぎながら、北九州市の子どもたちの最善の利益の増進を図るとともに、当連盟の施設の安定的な運営に少しでも寄与できるよう、与えられた職責を果たしてまいりたいことをお約束し、(公社)北九州市私立保育園連盟会長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

当連盟会員各位の心強いご支援ご協力を心からお願ひ申し上げます。

(公社)北九州市私立保育園連盟

会長 岡村信久







今回「北九州市立児童文化科学館」を訪ね、中嶋館長・金子次長・丸山指導担当係長にお話を伺いました。

**Q. 運営主体、事業目的を教えてください。**

**A.** 全国的に指定管理の業者委託が多い中、運営主体は、北九州市が直営で運営しています。事業目的は、幼児及び児童生徒に対して、児童文化の向上及び科学教育の振興を図ることを目的としています。各種プログラムを通じて情操の涵養・生活指導・子どもの自発的活動を促



外観

し、心身ともに健全な青少年を育成することです。  
**Q. 北九州市立児童文化科学館はどのような施設ですか。**

**A.** 施設概要

● プラネタリウム用ドーム室（二七〇席）や天体観測用20cmクーデ型屈折式望遠鏡、ヘリオスタット式太陽望遠鏡、展示室、集会室などの設備があります。

● 開館時間9時～17時

（入館は16時30分まで）

● 休館日／月曜日

（月曜日が祝・休日の場合はその翌日）

● 年末年始（12月28日～1月3日）

● 職員数は12名

（正規職員4名、嘱託職員8名）

【入館料】

「プラネタリウムを観覧する場合」

大人450円 中学生300円

小学生220円

年長者130円

「プラネタリウムを観覧しない場合」

大人150円

中学生100円

小学生70円

年長者40円

\* 団体割引：有料入場者数が30名以上で約1割引、50名以上で約2割引です。

**Q. 展示品としては、どんな展示がありますか。**

**A.** 本館1階は物理分野と生物分野対象で、風速体験室「ウインドシミュレーター」などがあります。

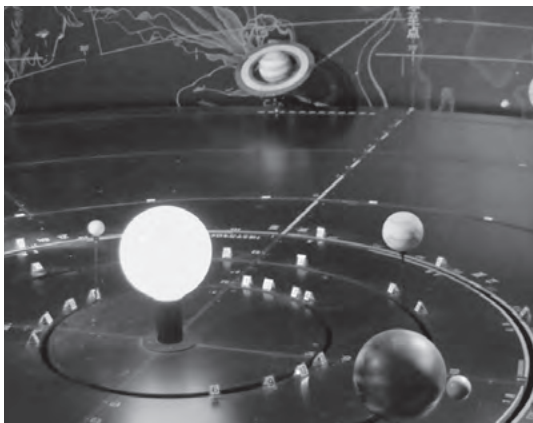
本館2階は電気科学分野が対象で、赤外線を避けながらトンネルを脱出する「ルパンウオーク」や風力でボールの浮き上がり状況を体験する「エアテューブル」等があります。そして天文館では、宇宙や地球環境分野が対象で、「太陽系運行儀」などの展示品があります。

**Q. 事業内容について教えてください。**

**A.** 主な事業として

1 プラネタリウム事業

1日3回、日曜・祝日は4回、通常



天文館2階

番組のほか特別番組を放映しています。

2 小学生対象天文学習事業

市立小学校4年生を対象（平成30年度131校）に太陽系運行儀やプラネタリウムを活用した天文学習の場を提供し、児童の天文に対する興味・関心を高めています。

3 ジュニアマイスター養成講座事業

北九州マイスター制度や市内企業、大学、小中高高等学校等との連携を図りつつ、科学の基礎を学び未来の科学者養成を目指し、ものづくりや科学のおもしろさや小学校高学年・中学生では、本物のものづくりや科学技術を身近に知るための講座を開いています。令和元年度の企業との連携としては、安川電機・九電・西部ガス、電源開発に協力していただき、最先端の講座や演習、施設見学などを実施しています。

4 チャレンジロボット事業

本市が目指すロボット産業振興の取組みに鑑み、ロボットの基礎や動作の原理、プログラミングなどの技術や将来の技術者、科学者となるきっかけを目的として未来のパイプ役となっています。北九州市ロボカップ大会とも連携を図り国際ルールに則った「ロボカップジュニア」競技会「ノード大会」を年1回ずつ実施しています。



科学体験プログラム

5 科学体験教室事業

日常では体験できない科学プログラムミングを実施しています。実施例：幼児向けサイエンスショー、学校で体験できない科学工作や科学遊びプラネタリウム見学など。

6 クラブ事業

小中学生を対象に自然に対する興味を深め、生活に関連した実験や工作を行う実践的クラブです。

7 文化普及事業

木のおもちゃづくりや昔の遊び体験を通してよりよい文化を市民に提供しています。

8 天文普及事業

天文講座の充実として、観望会などを実施しています。

Q. 施設の特徴をお聞かせください。

A. 旧八幡市で、昭和30年に日本で初

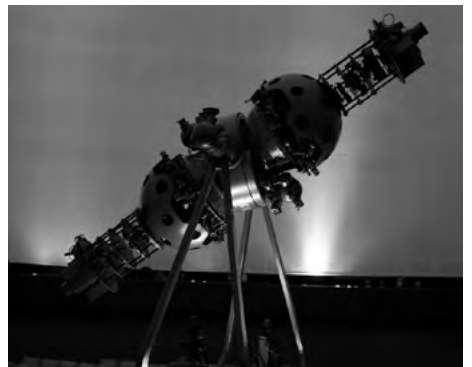
めての子どものための科学館「八幡市立児童科学館」が、当時の国鉄八幡駅3階に開設されました。その後、昭和35年に現在地に「八幡市立児童文化センター」（昭和38年に「北九州市立八幡児童文化センター」に名称変更）を移転開設しました。昭和43年に市立児童科学館と統合してから約50年以上の歴史があります。その後、別館や天文館を増築するとともに、昭和45年に当時としては日本最大級のプラネタリウムを設置しました。昭和57年には、現在の名称である「北九州市立児童文化科学館」に改めました。

天文館には、日本最大級の（直径7m）の太陽系運行儀を備え、観測室には20cmのクーデ型屈折式望遠鏡があり、観望会「星の観望の夕べ」や「昼間の星を見る会」を開催し市民に親しまれています。

科学館と学校教育が連携協力を図りながら、子ども達と共にものづくりの街、北九州を支える若者を育てる教育の一翼を担っています。

Q. 年内どのような企画イベントの予定がありますか。

A. 館内あげてのイベントとして11月10日（日）に「わくわくサイエンスキッズ」を実施します。高等教育機



プラネタリウム

関や高等学校、ボランティアの協力を得て、一般市民（特に幼児・児童生徒）に身近な工作の楽しさを味わう機会を提供していきます。当日は入場料（プラネタリウム含む）が無料となります。

施設前でミニトレインの体験乗車や各ブースで科学工作等の体験ができます。年2回実施しており、1回目は4月28日（日）に開催し、延べ約2500人の参加がありました。ぜひ2回目の「わくわくサイエンスキッズ」へも沢山の参加をお待ちしています。

〈インタビューを終えて〉

中嶋館長さんと職員の方のお話の中で、北九州を支える若者を育てる教育の一翼として、児童文化科学館での多種多様な事業とプログラム

をたくさん子ども達に体験してもらいたいとの熱い思いが強く感じられました。そして今後の保育園の園外活動においても児童文化科学館での体験の機会を取り入れて子ども達の心を豊かにはぐくむ活動に参加していきたいと思いました。ありがとうございました。

寄付

（二社）北九州市保育所連盟  
（公社）北九州市私立保育園連盟  
北九州市保育士会

へご寄付

（公社）北九州市私立保育園連盟 前会長 橘原淳信様より保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきます。ありがとうございます。

（二社）北九州市保育所連盟

へご寄付

竜光保育園 指導保育士 深川祥子様より西村法昭顕彰会受章に伴いご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきます。心から感謝申し上げます。



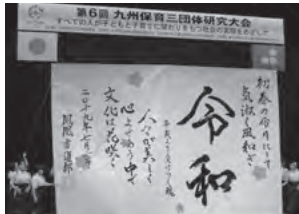
# 研修・一期一会

第6回九州保育三団体研究大会に参加して

令和元年7月11日(木) 13日

(土)「第6回九州保育三団体研究大会」が鹿児島で開催されました。第1回目の研究大会からの共通のテーマ「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」、平成30年度に施行された「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・教育、保育要領」を受けて、保育施設等に関わる子どもたちの育ちの方針が統一・明文化され、私たち保育者の保育実践が重要視されています。それに応えていく専門職として、意識向上とスキルアップに努めていくことを目的に、九州各県より1500名の保育関係者が集いました。

オープニングでは学校法人希望が丘学園鳳凰高等学校・書道部による書道パフォーマンスがあり、袴姿の部員たちが音楽に合わせて書く迫力ある筆運び、躍動感あふれる



る演技の美しさを見るうちに自然と作品に引き込まれていくようでした。

表彰式では前九州私立保育園連盟会長の橋原淳信先生が九州保育三団体協議会会長特別功労賞を受賞されたのを始め、会長表彰等39名と1カ園が表彰されました。

基調講演は、厚生労働省子ども家庭局保育課より「保育の現状と取り組みについて」と題し、幼児教育・保育の無償化の制度の概要に関する話がありました。

2日目、私は第1分科会「新たな時代の保育実践」すべての子どもにむけて」に参加しました。3園の先生方の事例発表は「楽しく体を動かす」「遊びや生活の中で自ら育つ子ども」の力でした。中村学園大学教授・那須信樹氏から「新たな時代の保育実践の「新たな時代」をどのように捉えるのか。②保育の質を捉え高めていく手がかりとなる」共



通語」を意識するとは。③子どもの育ちを保障できる自らの「保育者としての育ち」に自覚的になるとは。という3つの柱のグループワーク

でした。私のグループは鹿児島、大分、北九州という地域・環境の違う園で、遊びの工夫や職員間での共通理解の方法等の意見交流ができました。那須先生からは「自園の保育目標・保育方針の見直しの必要性はないか」「できる、できないを問う保育」から「可能性において豊かな子どもを育む保育へ」「見える保育」から「見えない保育」へ「与える保育」だけではない「引き出す保育」重視へという助言をいただきました。

3日目の記念講演は、哀川翔氏の「私の子育て術」でした。5人の子どもの父である哀川氏は夏休みは仕事をセーブして子どもと関わっていること、大勢でのキャンプの話、家族そろっての食事を大切にしたい思いから、朝食は家族全員で食べている。また、苦手な食べ物のある子どもがいたら「一つだけは苦手な物を残していいよ。あとは頑張って食べよう」と、一つ逃げ道を作ってあげていた。という話があり



私自身の子どもへの言葉かけを見直すきっかけとなりました。「今まで、子育てで失敗したと思ったことはないですか」という会場からの質問に「子どもは一人ひとり性格も違うのだからこのやり方がこの子に合わないな。と思ったら他の方法で関わってあげたいので、それは失敗ではない。失敗と思ったことはない」という話を聞き、子育ての原点を見つめ直す機会となりました。

3日間の有意義な研修を終えた私は、どうしても行きたかった、知覧特攻平和会館へ向かいました。20歳前後という若い陸軍特攻隊員のお母様、お父様、そして我が子に向けて書かれた遺書。涙が止まらない中で読みながら、今の平和をかみしめると同時に、命の尊さ、子ども自身が命を大事にするように保育の中で伝えていかなければ、という思いで帰路につきました。

きくが丘保育園 主任保育士  
竹川 佳世子

支部近況

第23回

小倉北区篇  
PART2



小倉北区には34の保育所(園)があります。支部近況では3回に分けて各園の様子をご紹介します。

光沢寺保育園

第82期生が巣立ち、本市でも古い歴史と伝統を持つ保育園です。「我が子もここで育てたい!」と、三世代で当園に通う方が多くいます。20代から60代と、各年代の保育士が、子どもの自ら育つ力を信じ、その芽を援け伸ばす保育を心がけています。

神岳保育園

80周年を機会に開始した年長児の「リトミック活動」も5年目。その延長線上で「リボン演技」は運動会での華となっています。0歳から4歳までがそれを見ながら自分なりの表現も。今度は私たち!憧れがチャレンジへと繋がっています。

片野保育園

全園児で毎日「朝の体操」をして、元気に一日をスタートさせます。園庭では、プランターで野菜を育て、子どもたちが水やりをして、生長を観察しています。今年は暑い夏でしたが、ナスやピーマン、トマトが沢山収穫できました。育てた野菜を使って、カレーやサンドイッチを作り、美味しくいただきました。

愛の園保育園

愛の園保育園は小倉北区下道津の丘陵地に在り、自然の恵み豊かな環境の中で子どもたちはのびのびと過ごしています。1948(昭和23)年開園以来、一貫してイエス・キリストを通して与えられる神の愛と恵みに感謝して「キリスト教保育」を行っています。

三郎丸保育園

近年、城野駅周辺が整備開発され子育て世代の方が増えました。園に、遊びにくる親子が多くなり、近隣や隣接する小倉聴覚特別支援学校との交流を大切にしています。職員間では「子ども主体」を常に考え研修を重ねています。

西教寺保育園

住宅街の中に移転して9年目、地域の方々のあたたかい見守りの中、子どもたちはすくすくと育っています。園庭や向かいの砂津ふんせん公園での戸外遊びで、友達と元気いっぱい走り回り、強い体と思いやりの心を培っています。

長浜保育園

「長浜保育園職員の新たな夏のお楽しみ」  
「わっしょい百万夏まつり」の花火が今年は我が保育園近くの海上から打ち上げられました。職員たちは、目前で見る迫力ある一万発の美しい花火に大感激。長浜保育園に新たな夏のお楽しみができました。

あおば乳児保育園

昨年の7月より新園舎に移転し、定員も80名になりました。木の香りのする広い園舎で、子ども達ものびのびと過ごしています。コーナー遊びやウッドデッキでの水遊び、お遊戯室での買い物ごっこ等を元気一杯楽しんでます。

到津乳児保育園

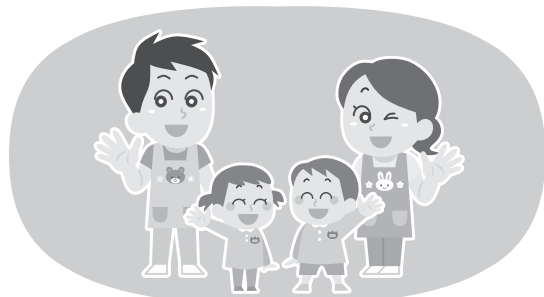
当園は、3歳までの人間形成の始めでもある大切な時期を保育する乳児専門の保育園です。  
園庭では、砂場や固定遊具(すべり台・ロデオ等)で遊んでいます。自然豊かな環境を生かし四季折々を感じる散歩も楽しんでいます。

貴船保育園

大型スーパーや病院の進出で様変わりをしている地域ですが、広い運動場に恵まれ、1年を通してのびのび遊べる環境です。また、同法人の高齢者施設との定期的な交流は、子どもたちにとって“命のつながり”を実感する体験であり、思いやりの心を育てています。

足原だきしめ保育園

毎朝、合掌をして挨拶をし、保育士に「ギュッ」と抱きしめられて一日が始まります。園庭は、桜、山桃、銀杏、紅葉等、多くの木々に囲まれ、子ども達は四季の移り変わりを感じながら、元気いっぱいに遊んでいます。



## はたけでとれた とまとときゅうり

(5歳児の作品)



私が高校生の頃、新聞記事に今は亡き風師保育園 園長森山シズ子先生が「紫綬褒章を頂いた」と大きく掲載されました。

当時進路に悩んでいた私は、その記事を読み保育士(保育)に憧れ、友だちと二人でお話を伺いに行きました。その時に、森山シズ子先生から温かい微笑みを投げかけられ、それだけで保育士となる決心をしました。

保育士となった私は同じ門司区の萩ヶ丘保育園に勤めました。新人の何も分からない私に、当時の秋吉高志園長をはじめ先輩の先生方が指導を下さり、また、色々な研修にも行かせてもらいました。特に言語部会・音楽部会・絵画部会と自分の担当する部会は無我夢中で勉強しました。今になってみると、ゆっくりと和気藹々で勉強した時間が懐かしく、楽しく思い出されます。他園の先生方との繋がりもでき、今でも交流があります。

現職中に二度の大病はありましたが、保育士として60歳の退職まで続けられたこと、家庭的な雰囲気の中で保育ができたことに感謝しています。

長く保育士として仕事をしてきた中で、海外派遣研修としてヨーロッパへ行かせて頂いたことは貴重な経験でした。他国の幼稚園・保育園への訪問では、驚きの保育が展開されていました。時間が決められた生活ではなく、自分のしたい活動・あそびを自由に選択して過ごしていくのです。また、年齢に区切られたクラス編成ではなく、すべてが自由な保育でした。私たちの持参した折り紙にとっても興味を持って頂いたことは嬉しかったです。また私の尊敬するフレイベル先生のドイツに行くことができたのは感動でした。そのような体験をさせて頂いたことにも感謝しかありません。

42年間務めた保育の仕事で退職して12年

間は、好きな趣味やボランティアとして絵本の読み聞かせグループ「芽ばえ」に加わり、図書館や学校、市民センターなどで活動をしていました。「ほっと子育て」事業にも係わる事ができ、本場に充実した12年でした。

このまま時間が過ぎていくのだと思っていたところ、萩ヶ丘保育園の秋吉玲子園長先生が退職され、次の園長にとのお誘いの話があったのです。私も70歳を過ぎていましたから本心に悩みました。ただ、子どもたちと共に生活するあの喜びも、もちろん苦しみも含めて知っていましたので、保育園の職場に戻り、自分のできる事、すべき事を追求していこうと決心してお引き受けしました。

今年で3年目を迎え、園長としての責任をひしひしと感じつつ、やはり子どもたちと生活する楽しさを味わっています。園長1年目で行なった支部研修の公開保育では、新米園長の私と職員一同で力を合わせて、無事終わったことが大変嬉しく、ほっとした瞬間でした。

昭和、平成、令和と時代も変わっていききました。保育制度も変わり、保育所保育指針が改定され、10月からは幼児教育、保育の無償化が実施されます。

それにも増して自園では保育士不足が深刻な問題です。今年度はようやく1名の新卒採用ができました。夢を持って保育士になった彼女がこの先、保育の仕事に誇りと生き甲斐をもって続けられるように、保育の楽しさを伝え、時には苦しさを分かち合い、育てていこうと思います。そして「視点はいつも子どもたち」を忘れずに、愛情をもって子ども一人ひとりを大切に保育を目指していこうと思います。

萩ヶ丘保育園園長 佐保光子

## 編集後記 — 時代の変化 —

明治・大正・昭和そして30年続いた平成の時代も幕を閉じ、令和元年を迎えました。保母から保育士へ…保育園で働く保育士さんの事を、昔は「保母」と呼んでいました。何か懐かしさを感じます。

保育園で大半を過ごす子どもたちにとって、保母は家庭の保育を補い、歌や遊戯を教え、運動を通し心身の発達や人格形成のために助力する専門職でした。仕事内容は今も昔も大きな違いはありません。当時は女性限定の仕事だったことから、「保母」という名称になったようです。1997年に男性が保育者になることが法的に認められ、「保父」と呼ばれ、1999年に児童福祉法が改正され、男女の区別のない「保育士」という名称に変更され、保母から保育士へと変わっていったのです。児童福祉法が、昭和22年に制定されて70年「すべての児童は、ひとしくその生活を保障され、

愛護されなければならない」と規定されています。

しかしながら、現代社会では少子化や核家族化の進行、又、待機児童、いじめや子どもの自殺、そして後を絶たない子どもの虐待、育児放棄などが地域社会の変化の中で生まれ、子どもや子育てをめぐる環境が大きく変化しつつあります。

保母として呼ばれていた時代、「働く親」を助けて子どもの心身を健やかにするため、人間形成の礎を一生懸命築いてきた諸先輩たちの保育の道を再確認し、保育士として新しい時代の保育を考えるとこそ、子どもの最善の利益を尊重することに視点を置き、その専門性を地域の子育て支援に活用しつつ、認識、理解を深め保育の在り方を探求、研鑽し続けることが大切です。